

# 電源立地地域温排水対策事業リモートセンシング調査 (抄 録)

松 原 久・尾 坂 康

温排水の排出が予想される前面海域の水産資源の維持培養および高度利用を図るため、その基礎となる水温分布および底層の水質を把握する。

## 1. 水 温 分 布

大間町奥戸（図1）漁業協同組合室内に昭和63年度に設置した気象衛星NOAAの画像受信装置から、表面水温分布情報を入手した。

平成6年2月から平成6年12月までの11ヶ月間における、雲の影響を受けなかった鮮明な衛星画像データの保存件数は57件（33日分）であった。月別の保存状況は、3月、4月が多かった。

冬期の津軽海峡における水塊配置は、津軽暖流と考えられる暖水域が、大間のやや東側程度の張り出しにとどまり、親潮系水が下北半島の北側沿岸付近まで勢力を伸ばしている様子がうかがわれた。

4月にはいると、親潮と考えられる冷水域の一部が下北半島北側沿岸に近づいているものの、その東側にも津軽暖流の一部と考えられる暖水域が広がった。下北半島と津軽半島との中間付近には、規模の小さな冷水域が認められた。

5～6月には成層期にはいったためか、明確な潮境がみられなくなり複雑な様相となった。

## 2. 水 質 調 査

データ期間は平成6年1月1日から平成7年12月31日までとした。

奥戸地先（長磯地点）の低層（水深8 m）に設置した水温塩分計による観測結果（10分間隔）の日平均値、半旬平均値、月平均値を整理し、これらのうちの日平均値の経時変化グラフを図2に示した。表示期間は平成6年1月から12月までとした。

これによると奥戸地先での水温は、日平均値で3月12日に最低値6.12℃、9月3日に最高値25.92℃を示した。平成6年の奥戸地先底層の水温は昨年と比べると最低値が1.75℃低く最高値が4.22℃高い、い

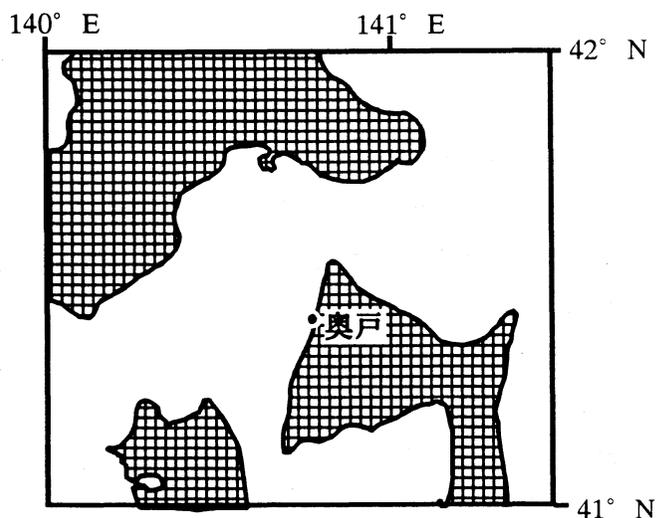


図1 調査地点（奥戸）

発表誌名

平成6年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（大間地点）平成6年3月、青森県

わゆる水温幅の広い結果となった。

一方、塩分は年周期に基づく変動はみられなく、日平均値で7月1日に最高値34.31が観測された。センサー保守の際、付着物を除去することによって、塩分値が不連続に高くなることから、塩分値は付着物による低下を起こしていると考えられ、最低塩分値を示すことは困難である。

水温変化と塩分変化を重ねてみると、数時間の内に水温低下と塩分低下、水温低下と塩分上昇、水温上昇と塩分低下、水温上昇と塩分上昇が、それぞれ同時に起こっているデータが観測され、水深8mと陸側に近い設置場所にも関わらず、センサー設置地点では、河川由来の水塊や沖合底層水由来の水塊が複雑に入れ替わっているものと考えられた。

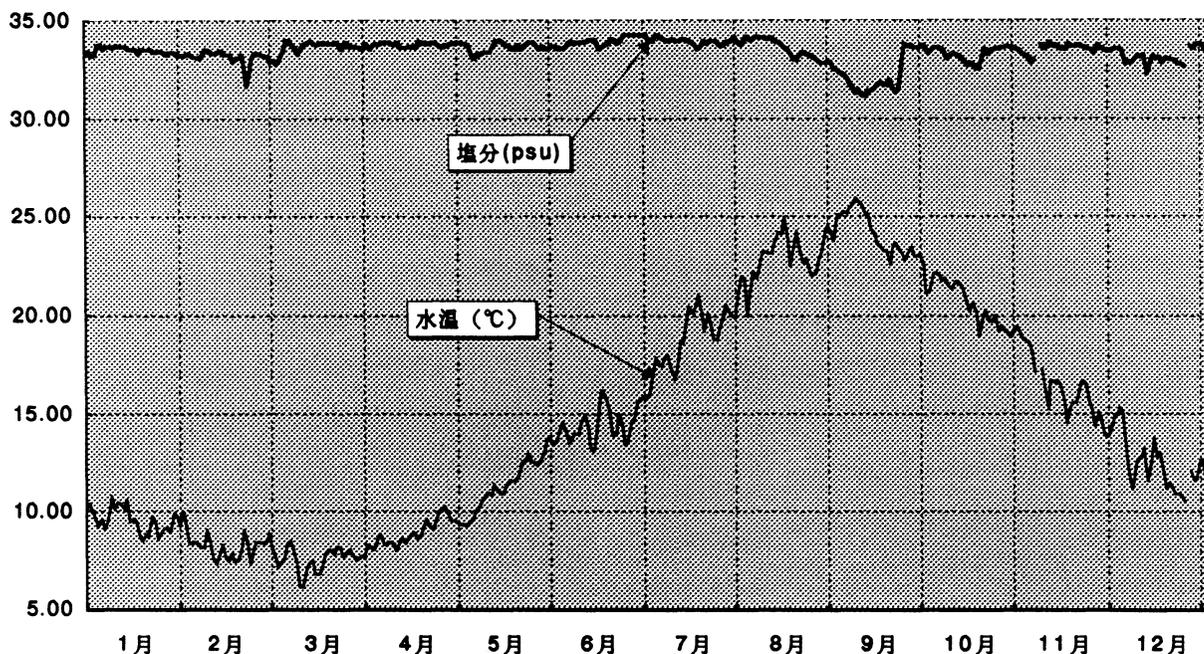


図2 奥戸地先水温および塩分の日平均値経時変化図